永田秀次郎（ながたひでじろう）政治家、俳人。明治九年七月二十二日兵庫縣生れ、昭和十八年九月十七日歿（一八六一―一九四三）。號更青嵐、吾庵庵主人、椋舎、野青嵐、青嵐等。明治二十一年第二高等學校卒。京都府警察部長、三重縣知事、内務省警保局長等を經て、大正七年貴族院議員、十一年東京市長、昭和十一年拓務相、十四年鐵道相歴任。また拓殖大學學長、帝國教育會會長、陸軍最高顧問等を務めた。フィリピンで客死。俳句は二高在學中寒川鼠骨に學び、俳句作數萬に及ぶ。後年俳句に關して「一切虚子責從主義」と言ふ。

著書『我思ふ所』（大正七年十一月）二十二日博文館）、『浪人となりて』（大正八年八月十三日耕文堂）、『我愛する偉人諸葛孔明』（大正九年三月十五日敬文館）、『青天の白鷺』（大正十年十一月十日敬文館）、『日本の改造性と慶びの春』（大正十三年一月一日敬文館書店）、『青嵐隨筆』（大正十二年十一月十八日敬文館書店）、『貴族院改革と國民の態度』（大正十四年二月五日敬文堂書店）、『建國の精神に還れ』（大正十五年二月一日實業之日本社）、『經濟隨想』（合著。東京朝日新聞經濟部編、昭和二年五月七日日本評論社）、『御大典に際し全國民に訴ふ』（昭和三年十月八日大日本雄辯會講談社）、『平易なる皇室論（附共産黨事件と國民の信念）』（昭和三年十一月十五日敬文館）、『青嵐隨筆梅白し』（昭和八年二月十八日實業之日本社）、『故子爵澁澤榮一翁追悼講演集』（合著・鈴木誠治編、昭和七年四月二十八日協調會）、『青嵐隨筆九十五點主義』（昭和十年二月二十五日實業之日本社）、『放送餞悔』（昭和十二年四月十五日實業之日本社）、『國際情勢と

海軍問題』（合著・平田藤太郎編、昭和十二年六月二十日成武堂出版部）、『大陸建設と太平洋問題―附亭變と帝國海軍』（合著・西尾利一編、昭和十四年二月五日東洋出版協會）、『國民の書』（昭和十四年三月一日京都・人文書院）、『日本の前進』（昭和十四年十月二十九日新潮社）、『後藤伯爵追慕講演』（合著、昭和十六年十一月讀賣新聞社）、『永田青嵐句集』（昭和二十二年十一月二十日新樹社）等。